

よろず支援拠点だより <89>

その「良いもの」は一体誰にとって良いものですか？

わかやま新報の読者の皆さま、こんにちは！ デザインコーディネーターのMTです。いきなりですが、「その『良いもの』は一体誰にとって良いものですか？」と、今回は少しきつめの言葉から始めることをお許しください。

デザインセミナーやご相談時によくお聞きするのが「これね、とても良いものなんですよー」という自信たっぷりのお言葉です。

「とてもこだわっている」「とてもおいしいです」とおっしゃいますが、それは一体誰のためにこだわったものでしょうか？ 誰がおいしく思っているのでしょうか？ 作り手が良いと思っても、ユーザーや消費者にとってメリットやベネフィットがないという意味がありません。

つまり「消費者やユーザーにとって良いものなんです」と言えるかどうかが大切です。商品やサービスをデザイン（開発）する場合にとても大切なのが、この立ち位置です。私たちがデザインを施す場合にとっても困ることもあり、マーケットを知らず自分だけの直観に頼った商品やサービスづくりをしてしまうと、どんなデザインを施してもさしたる成果は期待できません。

もちろん、勘に頼ったものでもまべれでヒットが出る場合もあります。しかし、そんなやり方では長くは続きません。大切なのは「誰のために」です。

弊社で作成した「メラミンおぼけスポンジ」という商品があります。「楽しい掃除グッズ」というコンセプトに、「お化けの形がかわいい」がメインではなく「掃除がしやすい子でも、楽しく掃除ができる」というターゲットを設定し、おかけさまで大ヒット。アジアデザインアワードも受賞しました。

単に自分たちだけがかわいいと思っただけでは駄目です。さあ、皆さまが今から作るものとしてるのは誰のための商品やサービスなのでしょう？ せひ、このようなく、誰のために？」を大切に。

和歌山県よろず支援拠点
和歌山市本町二丁目1番地
フォルテワジマ6階
URL <http://yorozu.yarukiouendan.or.jp/>
TEL 073・433・3100

